

講義名	オフキャンパスプログラム				授業形態	
担当教員	前川 明 / 後藤 奈々子 / 中山 一郎	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
受講生は、企業（自治体）へ実習（仕事体験やオープンカンパニー）に行くことによって、職業観を醸成し、社会人として活躍するための準備を行う。具体的には、事前に自己分析、業界・企業・職種研究、マナー研修を行う。実習先の選定は自らが行い、計画的に実習への参加を進めていく。実習先では仕事とは何か、企業（自治体）実習に参加することで学ぶ。そして、実習後は報告書を作成し、将来の就職活動につなげていく。						
到達目標						
実習先の選定、企業（自治体）実習を通じて、実社会において必要なビジネス・スキルの基本を身につけることができるようになる。また、職業への理解を深め、職業選択能力を高めるとともに、将来のキャリアビジョンを明確にすることができるようになる。						
提出課題						
・実習計画書（3日間以上の実習参加予定計画書） ・企業（自治体）実習日誌 ・実習報告書						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
毎回の授業で提出するミニレポートについてはクリッカー（Respon）もしくはリアクションペーパーを使用し、次の授業の冒頭で、前回授業のミニレポートの内容（感想、質問）を紹介し、必要に応じて、解説、回答を行う。						
評価の基準						
事前講義ミニレポート 40 % 提出課題の内容 60 % 3日間以上の実習（うち2日以上は対面での参加必須）への参加が出来ない者、事前、事後講義の受講姿勢の良いくない者、事前、事後講義の欠席が多い（3回以上の欠席をした）者は単位を認めない。また、事後講義（実習報告会）は必ず出席すること。						
履修にあたっての注意・助言他						
原則的に3年生を対象とした授業です。近年、企業（自治体）が実習を実施する目的や理由が「就業体験」から「採用直結」へと急速に移行してきており、4年生が履修したとしても現実的に「受け入れ先である企業（自治体）が見つからない」というのが実情です（実際に実習に行くことができれば単位修得はできません）。よって、履修登録にあたってはくれぐれも注意してください。 実習は、企業（自治体）との協働による学修である。そのために、企業（自治体）の立場に立って行動することが前提となる。日頃から対人関係やビジネスマナーを身につけるように心がけること。 具体的には 授業の受講時には、企業での実習時と同じように、決められたルールを厳守すること（例）遅刻、私語、居眠り、途中退席等は厳禁 企業実習に行く前に、必ず事前講義、マナー研修を受けること レポート・報告書等は、質の向上に努め、決められた期限内に提出し、必ず、実習報告会に出席すること。 また、実習先は自ら選定するため、夏休みに3日間以上実習に参加できるように、時間に余裕を持って計画的に進めること。						
教科書						
使用しない。						
参考図書						

その他	
授業において随時、プリント資料を配布します。 参考文献も随時、説明します。	
授業計画	
1 イントロダクション（中山、前川、後藤） < 予習 > 大学生の就職活動、インターンシップや仕事体験に関する内容について、就職サイトや本学図書館などを利用し、下調べしておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、夏休みに実習に行くための事例を調べて理解を深め、準備しておくこと。（120分） 2 就職活動を見据えた実習について（中山、前川、後藤） < 予習 > 就職活動で実施されるグループワークやディスカッションの内容について、就職サイトや本学図書館などを利用し、下調べしておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、夏休みに実習に行くための事例を調べて理解を深め、準備しておくこと。（120分） 3 マナー研修（後藤） < 予習 > 社会人のマナーに内容について、ホームページや本学図書館などを利用し、下調べしておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、夏休みに実習に行くための事例を調べて理解を深め、準備しておくこと。（120分） 4 企業（自治体）研究の考え方（中山） < 予習 > 夏休みに実習参加を考えている企業や自治体について、ホームページや本学図書館などを利用し、下調べしておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、夏休みに実習に行くための企業や自治体を調べて理解を深め、実習へ応募するための準備をしておくこと。（120分） 5 自己PR、ガクチカを考える（中山） < 予習 > 簡単な自己分析をして、自分の強みや学生時代に取り組んだことの整理をしておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、自己PRやガクチカを生成AIなどを活用して作成し、実習へ応募するための準備をしておくこと。（120分） 6 実習先の選び方（前川） < 予習 > 第4回目の授業で調べた企業や自治体の中から夏休みの実習に参加するための応募（エントリー）が出来るように、企業（自治体）のホームページや就職サイトなどを利用し、理解を深めておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、企業（自治体）のホームページや就職サイトなどを活用して、実習へ応募するための準備をしておくこと。（120分） 7 実習計画作成（前川） < 予習 > 第6回目の授業で考えた実習の候補になる企業や自治体の中から、夏休みの実習に参加する計画を複数パターン考えておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、夏休みの実習計画を立てること（選考がある実習を計画に入れる場合は不合格になった場合も想定して計画を立てること）。（120分） 8・9 マナー研修（後藤） < 予習 > 第10回目の講義内容を振り返り、夏休みに実習に参加するためのマナーについて、ホームページや本学図書館などを利用し、下調べしておくこと。（120分） < 復習 > 講義内容を振り返り、夏休みに実習に行くための準備をしておくこと。（120分） 10～13 企業（自治体）での実習（中山、前川、後藤） < 予習 > 実習先の企業（自治体）のホームページや就職サイトなどを利用し、理解を深めておくこと。（各回120分） < 復習 > 実習内容を振り返り、実習先の企業（自治体）のホームページや就職サイトなどを利用し、実習報告書の作成をすること。（各回120分） 14・15 実習報告会（中山、前川、後藤） < 予習 > 実習報告が出来るように、これまでの実習内容を発表できるように準備しておくこと。（120分） < 復習 > 他の学生の実習報告も参考にしながら、自身の実習内容を振り返り、企業（自治体）のホームページや就職サイトや本学図書館を利用し、今後の就職活動への進め方を考えること。（120分）	
授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
当該科目は、企業（自治体）実習に参加するための準備として、自分の強み・弱みを知ること（自己PR）。また、働くことの意義（価値観）、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力（グループディスカッションなど）を高め、夏休みには実際に実習に参加することを目的とした授業であり、社会に出る準備をする科目である。そのため、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンの育成」という本学のIPとまさに合致していると考える。	
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
毎回の出席管理やリアクションペーパーの回答はクリッカー（Respon）を用いる。	
実務経験の有無及び活用	
実務経験あり この科目を担当する3名の教員はキャリア教育の専門家として、本学学生だけでなく、他大学も含めた多くの大学生の就職支援、キャリア教育に従事し、その経験を生かして、大学での学びや大学生活（課外活動など）での経験が、どのように社会で役に立つのかを事例を交えて解説を行う。	
備考	